

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

西 田 智 男

○長野県松本市

「街なみ環境整備事業」及び「歩いてみたい城下町整備事業」について

【所 見】

長野県松本市は県の中央部に位置し、江戸時代から松本藩の城下町として栄えてきた。平成17年に4村、平成22年には波田町と合併し、人口24万人となり東西52キロメートル、南北約41キロメートルという県内一広い市となった。東西に3,000メートル級の山に囲まれた標高590メートルに位置する山岳都市である。東京から250キロメートル、名古屋から約190キロメートルの位置にあり、空港のジェット化により広く遠方都市とのパイプも整備され、古くから学問に専念できる町「学都」、アルプスを領して多くのアルピニストを迎える「岳都」、まちかどにバイオリンの調べを聞く街、サイトウキネンフェスティバルの街「楽都」、「三がく都まつもと」と呼ばれている。

恵まれた自然の景観、国宝松本城を有する松本市は今、観光都市としての新たな環境整備事業を5地区に区分して積極的に進めている。市民の整備に対するマインドも高く計画が進捗されているとの説明を聞き、本市の事が大変懸念された思いであった。

○長野県安曇野市

「安曇野市観光振興ビジョン」について

【所 見】

安曇野市は人口9万6,479人の高原都市です。北アルプスに抱かれた空気と水のおいしい街との説明を受け、実感してきた。そして、先人の守り育てた田園、溢れるばかりの緑と水、個性に満ちた歴史と文化、そして、バランスのとれた都市化と経済は、住民の豊かな生活の基盤であり、全国の人々に愛される安曇野として認知されているとの説明も受けた。

また、安曇野市では、「はじめよう、安曇野ツーリズム」という理念のもと「安曇野市観光振興ビジョン」を策定している。これは、市民協力のもと大切にしてきた自然や農村景観、歴史・文化、コミュニティーを来訪者へ発信することが必要であるとの考えに基づいたものである。観光を通じ地域経済活性化に向けた取り組みに向け、全市一丸となった意識的な仕組みづくりを構築しているとの説明

を受けた。

そのほか、次の内容について質疑を行った。

- 1 市内観光の交通手段について
- 2 外国人観光客の誘致及び受入れ対応について
- 3 旅行業者等へのPR及び誘客に向けた連携について
- 4 観光客の滞在期間の増加及びリピーターの確保への取組みについて
- 5 NHK連続テレビ小説「おひさま」のロケ地効果とその後の活用について